

2019年2月吉日

JARIP フォーラム 2019 のご案内

日本保険・年金リスク学会 (JARIP)
フォーラム担当 田中・岩崎

このたび日本保険年金リスク学会(JARIP)では、「JARIP フォーラム 2019～医療介護の一体改革とデータサイエンスの役割～」を開催することといたしました。

2016年3月のJARIP フォーラム 2016「後期高齢期の所得保障と医療・介護のパーспекティブ」では広く高齢者の社会保障問題を取り上げましたが、今回のフォーラムでは、その続編として最近のデータサイエンスの進展を踏まえながら地域におけるデータにもとづく医療・介護問題の解決策を探ることをメインテーマといたします。

この問題について長年にわたりわが国で研究や実践をされている有識者による講演とパネルディスカッションを行います。

【趣旨説明】

超高齢化社会時代を迎え深刻化が予想されるわが国の医療・介護分野を巡る諸問題を考える上でデータにもとづく政策決定が重要になると考えられる。この問題に造詣の深いそれぞれの分野の有識者に集まっていただき、この問題解決への道筋を探求する。またそのための地域のデータサイエンス力の向上のために何が必要かについても併せて考えたい。

記

- 日時 2019年3月16日(土) 12時30分～17時30分
終了後懇親会を予定しています。
- 場所：日大文理学部世田谷キャンパス 百周年記念館国際会議場
日大アクセス：<https://www.chs.nihon-u.ac.jp/access/>
キャンパスマップ：
<https://www.chs.nihon-u.ac.jp/wpchs/wp-content/uploads/2018/10/%E3%82%AD%E3%83%A3%E3%83%B3%E3%83%91%E3%82%B9%E3%83%9E%E3%83%83%E3%83%97.pdf>

詳細地図は次ページを参照ください。

- 参加費
 個人正会員・学生会員；無料
 非会員；2,000 円
 法人会員；3名までは無料、それ以上は 1 人当り 2,000 円

- 懇親会費 3,000 円 (3月8日正午 → 12日正午以降キャンセル不可に変更)
 参加費・懇親会費は当日受付にて徴収いたしますのでお釣りのないようにご用意いただければ幸いです。

参加申し込み：締め切り ~~3月8日(金)正午~~ → 3月14日 15:00 に延長
 懇親会の申込は3月12日 正午まで

下記URLの【専用申込フォーム】より申し込みください。

<https://fs222.formasp.jp/c442/form3/>

【地図】最寄駅は京王線の下高井戸駅か桜上水駅です。道路を隔てた文理学部の正門の反対側に百周年記念館があります。その2階が会場の国際会議場です。



■ プログラム

開会の挨拶 12時30分～35分

- 諏訪 徹（日本大学文理学部社会福祉学科）

フォーラム趣旨説明 12時35分～50分

- 田中周二（当学会フォーラム担当理事,日本大学文理学部）

講演 12時50分～16時10分（質疑応答を含め一人40分）

- 権丈善一（慶応義塾大学商学部教授）

タイトル：「データによる制御機構の構築——医療機能別病床数の推計から医師偏在指標作成までの意味」

概要：2013年の社会保障制度改革国民会議で、「データによる制御機構をもって医療ニーズと提供体制のマッチングを図るシステムの確立」が唱えられた。あれから6年近くが経つ。その間、データによる制御機構の構築がどのように進められてきたのかを概観し、今後の課題と展望を論じる。

- 長谷川敏彦（未来医療研究機構代表理事）

タイトル：「21世紀の新医学体系の構想——市区町村医療介護保険データ統合による医療ビッグデータを用いて」

概要：日本の医療の大地殻変動は、19世紀後半、ドイツでウイルヒョウらが創設した近代医学の枠組みでは対処できず、全く新たな医学の体系と、経営システムのイノベーションが求められている。市区町村の健診、医療保険、介護保険、死亡個票を個人レベルで統合し、市区町村の戦略的経営情報システムとして構築することを提案する。

- 西岡隆（厚生労働省年金局企業年金・個人年金基金数理室長）

タイトル：「地域包括ケアの構築と医療福祉ICT基盤の活用 ～大分県臼杵市の事例より～」

概要：人口減少・少子高齢化に直面する地方都市大分県臼杵市では市内全域「うすき石仏ねっと」というICT基盤が整っており既に人口の半数以上が加入している。その活用により、いかにして持続可能な地域包括ケアの仕組みを構築しているのか、さらには、同様の取組を他地域に広げるためには何が必要かを考察する。

- 岩崎浩介（ミリマン・ディレクター、日本におけるヘルスケア部門およびデータ分析部門）

タイトル：「介入効果測定の good, bad, ugly」

概要：Healthcare intervention program（例えばデータヘルス計画における「事業」）の効果を測定することはPDCAサイクルを回す上でも不可欠であるにもかかわらず、ナンチャッテ測定法がよく見られます。なぜだめなのか、どうあるべきなのか、紹介します。それを踏まえて、データヘルス計画に将来はあるのかどうか、意見を述べます。

- 菅原慎矢（東京理科大学経営学部講師）

タイトル：「介護保険サービスの経済実証分析」

概要：日本の介護保険は、居宅系・施設系・地域密着系と、世界的に見ても類を見ないような数多くの介護サービスをカバーしている。本講演では、様々なサービスの費用や効果に対して講演者が行ってきた実証研究を紹介し、介護提供体制の現状について考察する。

（休憩）

パネルディスカッション 16時30分～17時20分

閉会 17時30分

懇親会（第2体育館 1階 カフェテリア チェリー） 閉会后すぐ

以上

JARIP フォーラム 2019 講演者紹介

(講演者紹介)

権丈善一

慶應義塾大学商学部教授。2002年から現職。社会保障国民会議、社会保障制度改革国民会議などの要職、社会保障の教育推進に関する検討会座長などを歴任し、今は医療・介護情報の活用による改革の推進に関する専門調査会、医師需給分科会にてデータによる制御機構の構築に参加。近著に『ちょっと気になる医療と介護 増補版』『ちょっと気になる政策思想』

長谷川敏彦

一般社団法人未来医療研究機構代表理事，日本及び米国での外科臨床医勤務後、厚生省健康政策局計画課長補佐、国立がんセンター運営部企画室長、国際協力事業団医療協力部医療協力課長、厚生省九州地方医務局次長、国立医療・病院管理研究所医療政策研究部長、国立保健医療科学院政策科学部長等を歴任。日本大学文理学部社会福祉学科で「社会福祉論」(2016-2017)の非常勤講師として人口遷移論等新たな観点から社会福祉学コースを担当。

西岡隆

厚生労働省年金局企業年金・個人年金基金数理室長・普及推進室長

1995年、数理職員として旧厚生省（厚生労働省）に入省。年金分野をはじめ社会保障施策に関わってきたが、2009年～2010年、2013～2015年の二度にわたって大分県臼杵市に赴任し、協働まちづくり推進局長などの立場で、地域のコミュニティづくり、医療・介護連携を軸とした地域包括ケアの取組み、移住・観光など地方創生の取組などに関わってきた。2016年、再び、厚生労働省年金局に戻り、システム室長を経て、2018年7月より現職。

岩崎浩介

ミリマン,ディレクターミリマン・ディレクター、日本におけるヘルスケア部門およびデータ分析部門

2000年よりミリマン・ニューヨークオフィスにおいて医療経済・アウトカム研究を担当。2013年よりミリマン東京オフィス・ディレクター。東京大学理学部数学科卒、コロンビア大学MBA、日本アクチュアリー会正会員、日本保険・年金リスク学会理事、米国アクチュアリー会会員、国際薬剤経済アウトカム研究学会（ISPOR）会員。

菅原慎矢

東京理科大学経営学部ビジネスエコノミクス学科講師。2005年東京大学経済学部経済学科,2012年同経済学研究科博士課程単位取得満期退学。2013年東京大学大学院経済学研究科助教,2015年東京大学大学院情報理工学系研究科特任助教を経て現職。専門は計量経済学および医療経済学や高齢者介護の経済学。主著に「日本の介護」(共著)がある。

(パネリスト紹介)

諏訪徹 (パネリスト)

日本大学文理学部社会福祉学科教授および同学科主任。1988年全国社会福祉協議会,2008年厚生労働省社会・援護局社会福祉専門官を経て,2013年4月より現職。

田中 周二 (モデレーター)

日本大学文理学部数学科教授,1974年日本生命入社,ニッセイ基礎研究所を経て現職。博士(数理科学)。元JARIP会長、日本アクチュアリー会理事、JARIPフォーラム担当理事、